



編集後記

世界の人々が、地球の気候変動の異常に気付き、国連にIPCC（気候変動に関する政府間パネル）が設立されたのは、1988年のことでした。その後、COP（国連気候変動枠組み条約締約国会議）が開催され、1997年には、COP3で、京都議定書が採択されました。そんな世界の動きの中、国内では「地球温暖化対策推進法」が成立し、それに基づき千葉県でも温暖化防止活動推進員制度が導入され、「温暖化防止ながれやま」が2002年（平成14年）に発足しました。

今回、20周年記念誌でこれまでの活動を振り返ると、地域密着で子供から大人まで幅広く活動してきたことが分かります。特に2009年（平成21年）に流山市から委託を受けて「市民環境講座」活動が安定し、学校等への出前授業も活発に行ってきました。残念なことに、新型コロナの感染拡大により、活動が制限されることが多いのですが、感染対策を講じて市民環境講座等を継続実施しております。

私たちは、地球温暖化問題という大きなテーマに対して、一人ひとりの力はそれほど大きくないかもしれません、皆さまの力がチームとなって結集すれば、地球規模の大きな力になれると思います。そんな思いを込めて、これからも皆さまのご支援を賜り「地球の明日のため 流山からアクションを！」をスローガンに活動してまいります。

温暖化防止ながれやま20周年記念誌編集委員会

増永弘 吉永泰祐 難波幸男 平手彰 笠原久恵 筒井義憲



令和3年度第4回市民環境講座終了後・らんま先生と会員の集合写真

発行日 令和4年11月5日
発行責任者 温暖化防止ながれやま
代表 増永 弘
千葉県流山市西平井2-16-7
TEL&FAX 04-7158-3481
事務局 吉永 泰祐
MAIL info@obn-na.org



令和4年11月

目 次

1. 20周年記念誌発刊にあたり 代表挨拶

1

2. 創立20周年に寄せて 祝辞

衆議院議員(元農林水産大臣)	斎藤 健	2
流山市長	井崎義治	3

3. 20年間の活動の歩み

①発足(平成14年9月)から平成29年3月までの活動(トピックス)	4
②流山市から委託を受けた市民環境講座	5
③環境出前講座の開催	7
④省エネ学習会(「暮らしのSDGs学習会」と改称)開催と奨励賞受賞	9
⑤15周年記念植樹とCO2ダイエット宣言記念植樹	11

4. 会員からのメッセージ

アクションこそOBN持続発展の原動力	平手 彰	12
進む地球温暖化と気候変動の現状	吉永泰祐	13
「温暖化防止と20年」を省みる	新田 修	14
行政の環境対策と市民	横田輝雄	15
ささやかな環境教育実践20年を振り返り 未来へ託す	難波幸男	16
温暖化防止ながれやま創立20周年に思う	高橋 勇	16
OBN20周年に感じたこと	大塚洋一	16
温暖化の進む20年を振り返って	下田 収	17
小さなこと、私たち一人一人の生活の見直しが大切	大塚香里	18
夢は地球を守る技術者	相葉悦子	18
ハチドリの一滴	加藤啓子	19
温暖化防止ながれやまの創立20周年を記念して	菅原英雄	19
猫の手のお手伝い	大塚紀夫	20
温暖化防止ながれやまと歩いた日々	筒井義憲	20
入会して10年を振り返って	笠原久恵	21

20周年記念誌発刊にあたり

代表 増永 弘



「温暖化防止ながれやま」が今年度20周年を迎えるにあたり、平成14年9月の発足から、先輩たちの活動状況などを10周年記念誌、15周年記念誌、会報誌などで振り返り確認しますと、発足当時の皆様には並みの努力では今日まで「当会」の存続が出来なかったものと感謝申し上げたいと思います。

とりわけ平成17年、流山市市民活動補助金を得て出前講座でのゴーヤの苗配布をきっかけとして東深井中学校などへゴーヤカーテン作り方出前講座開催、さらに美田自治会と協働してゴーヤカーテン普及活動に力を注ぎ、千葉県環境功労賞、環境大臣賞受賞へとつながった先輩諸氏のご活躍には改めて敬意を表すとともに、代表として身の引き締まる思いです。

本年4月の総会で、記念事業として20周年の振り返りとして記念誌を発行すること、記念の植樹をすることなどを含む、ささやかな記念式典開催を決定しました。この度、ご来賓皆様、会員皆さんからの寄稿と事務局でまとめました活動履歴などを「20周年記念誌」として皆様にお渡し出来ることになりました。

国の地球温暖化対策計画は、閣議決定した前回の計画を5年ぶりに改訂され、日本は、2021年4月に2030年度において、温室効果ガス46%削減(2013年度比)、2050年には完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めました。

最近の気象状況の局地的豪雨や気温の上昇は、人間活動による二酸化炭素の増加であると疑う余地がないと考えられています。

地球温暖化への対策を求められるのは、政府や企業だけではありません。家庭(市民)から排出される二酸化炭素も決して小さいものではないからです。暮らしで使うエネルギーを太陽光発電などの身近な自然エネルギーに切り替える。あるいは一人ひとりで行える小さな省エネの工夫も、地球温暖化の防止に役立ちます。家庭から排出される二酸化炭素のほとんどは、電力、ガス、ガソリンの消費からきています。そのため電気の使用量や自動車の利用を減らすことで、家庭から排出される二酸化炭素の量を大きく減らすことができます。

膨大な「二酸化炭素の量」を、一人ひとりの行動で分担しなければ「脱炭素社会」は程遠いものになってしまいます。流山市から委託されている市民環境講座において、これらの行動を周りに広めていくことが、当会に課せられた役割と責任(活動の推進)とし、第3回市民環境講座「未来ワークショップ」においては「未来の市長さん」から井崎市長さんに「明るい未来の提言」が出来ればと期待を膨らましております。

これまでの20年間、そしてこれからも当会をご支援頂く皆様に、新たなスローガン「地球の明日のため 流山からアクションを!」を実践していく「決意」を申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

祝 辞

元農林水産大臣
衆議院議員 齋藤 健



温暖化防止ながれやまの創立20周年を心からお祝い申し上げます。増永代表をはじめ、会員の皆様の長きにわたる活動に敬意を表します。

温暖化が世界的な環境問題として取り上げられてから長い年月が費やされてきましたが、問題は解決されることなく、むしろ深刻さの度合いを増しております。

今年6月、都心では3日連続の猛暑日となり、過去最多の14日の猛暑日を記録しました。6月には市内小学校の体育館から児童12名が熱中症で搬送され、7月には流鉄の線路が高温となり運休するなど、以前には見られなかつた事案が明らかに増えております。

温暖化防止の取り組みは国際的にも先送りできない重要な課題です。パリ協定を採択し、日本も2030年には温室効果ガス排出量を2013年比で46%削減、2050年に完全なカーボンニュートラルを実現することを目標に定めました。

しかし、ロシアのウクライナ侵略に伴うエネルギー供給の不安定化は、我々の努力を打ち壊し、各国の気候変動への優先度を下位に押しやりつつあります。

一部に消極的な国があることは残念ですが、私たちのやるべきことは変わりません。今、自分が地球環境のためにできることをやり、その輪を広めていくことです。

東京都では2025年から、新築一戸建て住宅に太陽光パネルの設置を大手住宅メーカーに義務付ける基本方針を示しました。

普及には蓄電池のイノベーションが不可欠ですが、現在、電解液を固体・半固体にし、安全性の向上・低コスト化・長寿命化・充電の急速化を実現する電池や、双極構造を取り入れ小型化・大電流化した電池、更にはレアメタルを使用しない電池が開発されるなど飛躍的に進化しており、国も支援しております。

子や孫のために少しでも良い環境を次世代へ繋いでいく。今を生きる我々に課された役目を先頭に立って取り組んでおられるのが温暖化防止ながれやまの皆様です。私も国政を担う者として皆様と共に取り組んでまいります。

結びに、温暖化防止ながれやまの更なるご発展と、皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

祝 辞

流山市長 井崎 義治



「温暖化防止ながれやま」設立20周年を心からお祝い申し上げます。また、会員の皆様方におかれましては、日頃から市政各般にわたり、温かい御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

地球温暖化防止対策は早急に取り組まなければならない問題となっております。貴団体が、平成14年にNPO団体として設立以来、長期間に渡り市民・団体・企業・行政などのパートナーシップを基本に地球温暖化防止の活動を推進し、平成23年度に千葉県環境功労者知事感謝状、平成25年度に地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞されるなど大きな功績を上げておられますことは、ひとえに歴代代表をはじめ役員並びに会員の皆様方の御尽力の賜物と深く敬意を表します。

また、近年では、令和4年2月に「脱炭素チャレンジカップ 2022」で奨励賞を受賞されるなど、地域に根ざした活動が評価されているものと心よりお慶び申し上げます。

「地球温暖化」は何も対策をしなければ地球に大きな被害をもたらすとされ、早急に解決しなければならない重要課題として、全世界で取組が進められています。この課題に対して自分たちで何ができるかを考え、実行していくことが不可欠です。

本市では、いち早く地球温暖化対策に取り組み、平成17年度の「地球温暖化対策地域推進計画」の策定をはじめ、各種の施策を推進してきました。現在は「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の改訂作業を実施しており、脱炭素都市ながれやまの実現に向け市民の皆様や団体・事業者の皆様と共に、様々な取組を進めているところです。

今後も地球温暖化対策に積極的に取り組んでまいりますので貴団体の引き継ぎの御支援を宜しくお願い申し上げます。

結びに、「温暖化防止ながれやま」の益々の御発展と、皆様方の御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げて、お祝いの言葉といたします。

① 発足(平成14年9月)から平成29年3月までの活動(トピックス)

発足から15周年までの活動のトピックス一覧です。

近年の活動紹介は、3. ②以降で項目別に紹介致します。

西暦	元号	項目
2002年	H14	流山市在住の千葉県温暖化防止活動推進員の5名で当会を発足
2003年	H15	イトーヨーカドーと推進連絡会を開催、流山環境デー展示
2004年	H16	流山環境デーに展示、市民環境講座、施設見学会を実施
2005年	H17	流山市環境行動計画に参画。風力発電施設見学
2006年	H18	CO2ダイエット宣言、ダイエット記念植樹（おおたかの森駅前広場） 流山市民活動団体公益事業補助金の認定事業となる（平成23年まで）
2007年	H19	第1回省エネ学習会開催（以後毎月1回、第1金曜日に開催） CO2ダイエット宣言、ダイエット記念植樹（前ヶ崎）
2008年	H20	環境講座（市民環境の集い）、出前講座（美田自治会）、エコメッセちば
2009年	H21	流山市から市民環境講座の業務委託を受ける（現在まで継続中） 環境シンポジウム（流山こども環境共和国）開催
2010年	H22	流山市委託の環境講座4回開催（以後毎年流山市委託の環境講座開催） 出前講座（駒木台自治会など7カ所）、環境映画上映「北極のナヌー」
2011年	H23	千葉県環境功労者知事感謝状を受賞 出前講座（おもと会など13カ所）、環境講座（太陽光発電）
2012年	H24	京和ガスエコアクション・サポート事業を受ける 流山市民まつり環境紙芝居「地底王国のカン王子の冒険」
2013年	H25	OBN創立10周年記念式典を開催（江戸川台福祉会館） 地球温暖化防止活動環境大臣賞受賞
2014年	H26	環境大臣賞受賞感謝の集い（南流山福祉会館） まちなか森づくりプロジェクトに参加
2015年	H27	第100回省エネ学習会、講師伊香賀慶応大教授「エネルギー効率」 「パリ協定」温暖化対策の枠組みを196か国が採択し、閉幕
2016年	H28	環境講座「地球温暖化を皆で楽しく考えよう」で、クールチョイス宣言 省エネプロジェクト、再生可能エネプロジェクトが発足
2017年	H29	流山市市制50周年式典において感謝状を受賞 OBN創立15周年記念感謝の集い開催、おおたか都市広場に記念植樹



平成25年 温暖化防止活動環境大臣賞受賞の集い

② 流山市から委託を受けた市民環境講座

市民環境講座は、平成21年に初めて流山市より委託を受けて、『親子で楽しみながら環境問題を学習する』ことを考え、市民の啓発活動を行っており、現在まで続いております。

近年は、らんま先生の環境エコパフォーマンスショー、LEDランタンやソーラーカー工作が定例化し、過去には国立環境研究所などの見学ツアーを行っていたものが、コロナ禍の影響を受けて、環境映画上映などに変わっております。

昨年度の講座と（参考までに）国立環境研究所の見学（平成30年と令和元年）を紹介します。

令和3年度 第1回市民環境講座「親子でソーラーカーを作ろう!」

令和3年7月17日（土）、第1回市民環境講座「親子でソーラーカーを作ろう！」が行われました。

会場では、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらソーラーカーの工作教室を実施しました。



令和3年度 第2回市民環境講座「LEDランタン工作」

令和3年8月8日（日）、生涯学習センター（流山エルズ）で第2回市民環境講座「LEDランタン工作」が行われました。

会場では、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながらLEDランタンの工作教室を実施しました。



令和3年度 第3回市民環境講座「親子環境映画上映会」

令和3年12月5日（日）、文化会館で行われました。

会場では、新型コロナウイルス感染対策を行いながら、環境について学べる「アマゾン大冒険」の映画鑑賞会を実施しました。今回は69組の小学生とその保護者の参加がありました。



令和3年度 第4回市民環境講座「らんま先生の環境エコパフォーマンスショー」

令和4年2月6日（日）、文化会館で第4回市民環境講座「らんま先生の環境エコパフォーマンスショー」が行われました。

会場では、新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、らんま先生の環境エコパフォーマンスショーを実施しました。今回は66組の小学生とその保護者が参加しました。



平成30年度 第2回市民環境講座「夏休みエコツアー」

平成30年7月21日（日）、今年度第2回目の市民環境講座を行いました。

今回は茨城県つくば市にある国立環境研究所とJAXA（宇宙航空研究開発機構）筑波宇宙センターへの見学ツアーでした。

**令和元年度 第2回市民環境講座「夏休み親子エコツアー」**

令和元年7月20日（土）、今年度第2回市民環境講座「夏休み親子エコツアー」を開催しました。

今回は国立環境研究所（夏の大公開）とつくばエキスポセンターへの見学ツアーでした。



平成30年1月から令和4年8月までの講座は、以下の通りでした。

西暦	元号	月	講座名
2018年	H30	1	「皆で楽しく考えよう」講師川崎氏、「アイス・エイジ2」上映
		6	ソーラーカーの組み立てと太陽光実感
		7	国立環境研究所とつくば宇宙センター（JAXA）、親子で見学 ソーラーカー組み立てと太陽光実感
2019年	R元	2	「宇宙から見た地球」菊池講師（JAXA）、広兼講師（NIES）、宇宙服
		6	ソーラーカー組み立て工作と太陽光の実感
		7	国立環境研究所と筑波エキスポセンター（JAXA）見学 「雲ができる不思議を探る」
		12	らんま先生の環境エコパフォーマンスショー開催
2020年	R2	8	ソーラーカーを作ろう、太陽光を実感しよう
		10	LEDランタン工作、LED照明について考えよう
		11	「ロラックスおじさんの秘密の種」木や自然の大切さを学ぶ
2021年	R3	6	ソーラーカーを作ろう、太陽光を実感しよう
		8	LEDランタン工作、LED照明について考えよう
		12	「アマゾンの大冒険」貴重な熱低雨林を考える
2022年	R4	2	らんま先生の環境エコパフォーマンスショー開催
		6	ソーラーカーを作ろう、太陽光を実感しよう
		8	LEDランタン工作、LED照明について考えよう

環境出前講座の開催

出前講座は、平成17年に他の市民活動団体や自治会、小学校、中学校、高等学校など広い範囲で、地球温暖化を中心とした環境問題について啓発活動を行いました。

以下に平成29年度からの活動を紹介致します。

平成29年度 第1回出前講座「日本盆栽協会・流山支部」

平成29年5月14日（日）15時15分から約45分間、割烹料理 せきや（流山市市野谷436）で出前講座を開催しました。当日は、日本盆栽協会・流山支部の総会が開催されその後の研修会として地球温暖化防止の講座が設定されました。参加者は20名の皆様でした。

講演は、「地球温暖化について」とし、最後に「出来ることからやる」「無理をしない」とし「私たち一人ひとりが省エネ・節電を心がけて地球を守っていこう!!」と宣言しました。

平成29年度 第2～5回出前講座を小学校(4校)で開催

平成29年11月6日（月）、長崎小学校において5時限目・6時限目の時間（13：30～15：45）に4年生（94名）を対象とした出前講座を実施しました。

講演内容は、「流山の環境変化」、「未来の地球と私たちの暮らし」でした。

他の開催小学校は、流山東、流山北、向小金の3校でした。

**平成30年度 第1回出前講座を流山高等学園で開催**

平成30年9月26日（水）13：50～14：35、千葉県立特別支援学校「流山高等学園」3年生の園芸技術科（23名）、工業技術科（19名）を対象とした出前講座を開催し、「私たちの暮らしと地球温暖化」について講演しました。地球温暖化の原因や影響の動画には驚きの目をしていました。

第2回は、10月4日（木）に開催しました。

**令和元年度 第1回出前講座を流山高等学校で開催**

令和元年5月11日（土）10：00～11：00、千葉県立流山高等学校「PTA総会」（1年生～3年生とその保護者：約600名）で出前講座を開催し、「私たちの暮らしと地球温暖化」について講演しました。



令和元年度 第2回出前講座を文化会館で開催

令和元年7月28日（日）、文化会館で夏休み親子チャレンジ教室「太陽エネルギーを実感しよう」が開催されました。

当日は小学生までのお子さんと保護者、計22組50人が参加しました。



令和2年度 出前講座「太陽エネルギーを実感しよう」を文化会館で開催

令和2年8月20日（木）、文化会館で「太陽エネルギーを実感しよう」が開催されました。

新型コロナウイルス感染症対策として、定員を減らし、参加者にはマスク着用と受付前の検温をご協力いただきました。



「ながれやま市民活動 オンラインフェスタ2021」(主催:流山市民活動推進センター)に参加

令和3年6月6日（日）10：00～15：00、流山市民活動推進センターで「ながれやま市民活動 オンラインフェスタ2021」が開催されました。今年は例年の対面形式と違った指向で自宅から参加出来るフェスタとして「ライブイベント」部門、「WEBミーティング」部門、「ビデオライブラリー」部門の3つの構成で、当会は3部門に参加しました。



「つながるひろがる縁結び交流会」に出展

令和3年11月6日（土）、流山市民活動推進センター（流山エルズC館3F）において「つながるひろがる縁結び交流会」（主催:流山市民活動推進センター）が開催されました。展示参加団体は当会を含め6団体でした。来場者は254名でした。



④

省エネ学習会（「暮らしのSDGs学習会」と改称）開催と奨励賞受賞

<省エネルギー学習会>

この学習会は、平成19年7月、当初は「エコワット会議」として発足し、一般市民の家庭に、省エネ推進のためエコワット（簡易電力測定器）を貸与しました。そのエコワットの貸与を受けた市民が月に一度集まり、エコワットの会議が開催されることになりました。

「エコワット会議」では、各家庭でのエコワット使用の結果発表、検討会、電気料金仕組み、電気入門（電圧、電流、ヒートポンプ、エコキュートなど）の勉強会などが行われました。

平成21年2月、「省エネ市民会議」と名称を変え、各家庭の排出しているCO₂を把握するため、環境家計簿を持ち寄り、電気、ガス、水道などについて検討をしました。流山市の地球温暖化の実行計画を流山環境政策課遠藤主査から解説をしていただきました。またエネルギーとは？

PPSについて、IPCCについて、水素社会について考えよう、電力の自由化、などその時々の環境問題や社会問題もテーマに取り上げ、発表し、皆で検討しました。

平成27年12月より、この会は「省エネルギー学習会」として再出発することになり、更に本年度には『暮らしのSDGs学習会と改称しました。近年の活動は、以下の表の通りとなっています。

毎月第2金曜日に開催。いろいろな環境の問題を出し合い、検討し、勉強しております。

No.	西暦	元号	月	テーマ
181	2022年	R4	8	「中国での環境教育と国内中学校での実践したBDF」
180			7	「自治会におけるごみ問題」
179			6	「スマートライフのおすすめ」
178			5	「SDGsの第1目標は家計の基本」
177			4	「でんき予報の見方と利用法」
176			3	「グリーンエネルギー（電力）について」
175			2	「水の星・地球に住む私たち」
174			1	「新春ビッグ対談「脱炭素社会へ向けて」」
173	2021年	R3	12	「人口問題と金融リテラシー」～老後に向けての経済的自立～
172			11	「私たち一人一人にできる COOL CHOICE : LED照明」
171			10	「惑星気象入門」
170			9	「身近な視点で温暖化防止対策を拡げる」
169			8	「ナショナル・パーク・シティ宣言」ロンドンに学ぶ
168			7	「集合住宅における省エネと高齢者対応（認知症）について」
167			6	「太陽エネルギーの活用について」
166			5	「日本の食文化／鮓について」
165			4	「コロナ禍、滅菌について考える」
164			3	「紙とエネルギー」
163			2	「日本の気候変動2020」（概要版）を読み解く
162			1	eco検定を受験して
161	2020年	R2	12	猿でも分かる「SDGs」入門
160			11	「リチウムイオン電池利用製品及び小型家電の分別について」
159			10	「家庭の省エネエキスパート検定」について（その2）

158	2020年	R2	9	「家庭の省エネエキスパート検定」について
157			8	a : コロナと温暖化 b : zoomの使い方
156			7	蓄電池のお話
155			6	「緊急地震速報と長周期地震動のお話」
154			5	自主学習
153			4	a : 生体の防御機構 b : 動物の免疫反応
152			3	a : 都市・建築を環境とエネルギーから考える（第1章） b : 生活空間の熱環境（第4章）
151			2	a : グローバルな大気循環（第6章） b : エルニーニョと大気海洋相互作用（第14章）
150			1	a : 新春対談（食品ロスなど環境について） b : 「森のタンブラー」

<省エネルギー学習会の実績が認められて奨励賞を受賞>

地球温暖化防止全国ネットが近年の気象の激変や災害の頻発などの状況を踏まえ、気候変動対策をより加速化するため、2020年に、OBNも2013年度環境大臣賞受賞歴のある「低炭素杯」から名称を改め、第3回目となる「脱炭素チャレンジカップ2022」においてOBNの「省エネルギー学習会」の取り組みがファイナリストに次ぐ優秀な成績を収めた団体として2022年2月に奨励賞が贈られました。

今回奨励賞受賞したのはパナソニックや三菱地所など企業・自治体部門から10団体、法政大学、東海大付属高校など学生、中学部門から4団体、市民部門からは温暖化防止ながれやま、いばらき地産地消委員会のわずか2団体、計16団体でした。これらの活動記録はスマホやパソコンで「温暖化防止ながれやま」【検索】の「暮らしのSDGs学習会」をクリックすることで、いつでもご覧いただけます。



授与された表彰状



第150回記念省エネルギー学習会・講師は斎藤健衆議院議員

⑤

15周年記念植樹とCO2ダイエット宣言記念植樹

15周年を記念して記念植樹を行いました。

(15周年記念誌に掲載できませんでしたので今回掲載しました)

15周年記念イベント 流山おおたかの森駅南口にヤマボウシを植樹

平成29年10月28日（土）、流山おおたかの森駅南口で記念植樹を行いました。これは、当会が、市内で温暖化防止活動を行い、平成14年に市内在住の千葉県地球温暖化防止活動推進員が中心となって設立され、今年15周年を迎えたことを記念して今回の植樹を行ったものです。当会は、自主事業として環境学習会や出前講座を行うほか、市の市民環境講座事業を受託し年4回の講座を実施しています。



平成29年2月に、平成18年にCO2ダイエット宣言に参加したことを記念して植樹された木の記念ポールの老朽化を受けて再建立しました。

「CO2ダイエット宣言植樹」のキンモクセイの記念ポールが老朽しているので再建立

平成29年2月4日（土）、流山おおたかの森駅前に「CO2ダイエット宣言植樹」されているキンモクセイの記念ポールが老朽しているので再建立しました。この記念植樹の苗木は、CO2ダイエット宣言実行委員会（環境省、経済産業省など）から贈られたものです。樹木はCO2を吸収して酸素を放出する特性があることから平成18年4月29日（土）に植樹となったものです。



平成18年4月29日（土）の植樹風景



現在のキンモクセイ

また、同様に平成19年5月に「CO2ダイエットエト宣言」で前ヶ崎に植樹した記念樹を、令和3年3月24日に剪定作業を行ないました。11年経過したカツラ×2本、コブシ×2本は大きく成長しましたが、令和3年2月に近隣の方から流山市役所に「落葉処理が大変なので何とかしてほしい」との要望があって、この度の剪定作業となりました。植樹された場所は狭い道路に隣接された斜面地で作業性の悪い環境でした。それぞれの樹木には低木処理を施した痕跡がありましたが、切斷箇所から枝が垂直に成長し高木化しておりました。

アクションこそOBN持続発展の原動力

平手 彰

今から10年前、すなわちOBNが10周年を迎えた2012年、当時は前年3月の東日本大震災から1年も経ず、国内ほとんどの原子力発電所が止まつたままの状態であった。

電力供給の不安定から再生エネルギー、とりわけ太陽光発電の普及が急務となつた。

あれから10年、折しも本年6月、福島県を震源とする震度6強の地震で稼働中の火力発電所数か所が運転停止となり修復に時間がかかるため夏を迎える需要増に綱渡り状況となつた。このため大地震直後の6月に電力需給ひつ迫警報が発せられたことは記憶に新しい。

すなわち10年たつても依然として日本の電力事情は基本的に脆弱なままである。とりわけ今年はウクライナ戦争の影響で石油や天然ガスといった化石燃料高騰でエネルギー代高騰は即諸物価高騰につながり、コロナ禍による不況と重なり、東日本大震災より全国的なダメージは今回のほうが大きいのではないだろうか。

しかし、化石燃料の海外依存を脱却し化石燃料不使用を前提とした脱炭素社会の実現を目指すには、今回の危機は卒化石燃料の革命的なチャンス到来と思う。

ピンチをチャンスに変えるのもアクションである。

OBNは県知事より委託を受けた千葉県地球温暖化防止活動推進員で構成され、当初より省エネに关心があるだけでなく自ら率先して活動する伝統があり、これが持続可能な開発環境団体として評価を得てきた。

アクションの基本は自分の家からである。今ではOBNの戸建住宅に住む会員の大多数は太陽光パネルを設置しており、10年間の売電買取り制度（FIT）による恩恵を得たのちは蓄電池により売電分を蓄電し、自宅で夜間消費する会員も増えてきている。

これによりゼッヂ（ZEH=ゼロ・エネルギー・ハウス）と称される健康快適生活と実質エネルギー消費による二酸化炭素排出量をゼロ

とした家庭は大幅に増加した。

中には戸建住居当時から省エネ仙人？として活動してきたN氏が集合住宅に転居、車免許返上という思い切ったアクションもあるが、自宅の断熱工夫やゴーヤカーテンや遮熱シート設置など気が付いたらすぐ実行する会員は事欠かない。

このコラム執筆時、流山電鉄の線路が猛暑で60°Cを超える安全のため一時運転を中止したとの報があった。越谷でも39.5°Cで全国一の猛暑と報じられていた。

幸い、電力需給ひつ迫警報が出なかったのは太陽光発電がほぼフル稼働中の時間帯であったことも幸いしたと思われる。

流山市民は実質無料で太陽光パネルを設置できる制度や蓄電池など省エネ関連の補助金制度などが充実しており、県下でも広範囲な補助金を享受できる。

地球の平均気温上昇を2050年までに1.5°C以内に収めないと人類存続が危ういと言われているが、もはや異常気象が常態となった今、具体的な行動目標として、足元の家庭からのCO₂排出は2030年までに2013年比で60%削減することを国から求められています。さあ今日から地球の明日のため流山からアクションを！



G7に向け流山からクリーンエネルギー促進発信

進む地球温暖化と気候変動の現状

気象予報士 吉永泰祐

地球温暖化に関する最近の話題からここでは2点ご紹介する。

第一は2021年のノーベル物理学賞に気象学者で、数値予報モデルを用いて二酸化炭素の量が倍になった時の地球の気温の変化を世界に先駆けて研究した米国籍の真鍋叔郎博士が選ばれたことである。このことは世界で驚きをもって受け取られた。最近のノーベル物理学賞には宇宙や素粒子分野が目立っていた。今回の受賞は世界の物理学会が気候変動の研究を重視しているのだということを宣言したものだと私は考えている。

博士が50年前に開発した気候モデルはその後の計算機の能力向上と気候システムの物理学的理解の進展により様々な発展をし、気候変動の解明に多大な貢献をしている。今後の発展が楽しみである。

第二は2021年に気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第6次報告書が発表されたことである。IPCCは真鍋先生達の研究成果を受けて1988年に設立され、第一次報告書が1990年に発表された。それからおおむね6年ごとに発表され、気候変動に対する人類の理解が深まってきた。

第6次報告では、気候の現状について、「人間の影響が大気、海洋、及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がない。人為期限の気候変動は、世界中の全ての地域で、多くの気象及び気候の極端現象に既に影響を及ぼしている」としている。

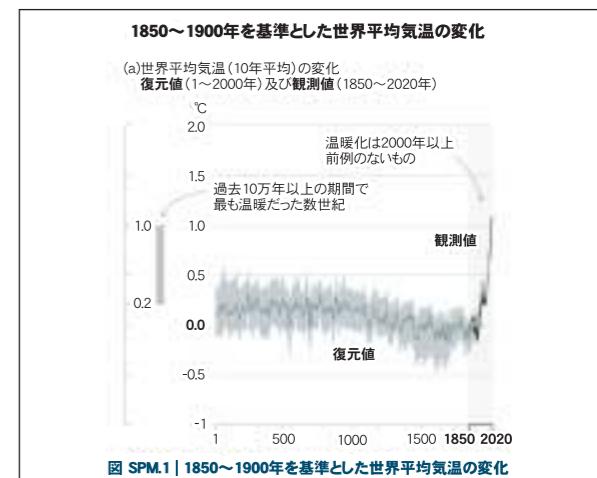
ここで私が注目するのは「疑う余地がない」という表現である。第1次報告では「恐れがある」、第3次では「可能性が高い」、第4次では「可能性が非常に高い」第5次では「可能性が極めて高い」とされてきたがその後の研究の進展により第6次では「疑う余地がない」とされたのである。

将来ありうる気候としては、「世界平均気温は、本報告書で考慮した全ての排出シナリオにおいて、少なくとも今世紀半ばまでは上昇を続

ける。向こう数十年の間に二酸化炭素及びその他の温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、今世紀中に地球温暖化は2°Cを超える。気候システムの多くの変化は、地球温暖化の進行に直接関係して拡大する。この気候システムの変化には、極端な高温、海洋熱波、大雨、いくつかの地域における農業及び生態学的干ばつの頻度と強度、強い熱帯低気圧の割合、北極域の海水、積雪及び永久凍土の縮小を含む。過去及び将来の温室効果ガスの排出に起因する多くの変化、特に海洋、氷床及び海面水位の変化は、百年から千年の時間スケールで不可逆である」としている。

次に、第6次報告書の中から「古気候から復元した世界平均気温の変化（薄い黒、西暦1年から2000年）及び最近の観測による世界平均気温の変化（濃い黒、1850年から2020年）」を下図に示す。

いずれも1850年から1900年の値を基準とし、10年で平滑化したもの。左側の縦棒は、現間氷期中の約6500年前に起きた少なくとも過去10万年間で最も温暖だった数世紀の期間の推定気温である。過去の温暖化は数千年にわたる地球の軌道要素の変動によってもたらされたものであった。白い斜線の入った灰色の領域は復元された気温の可能性が非常に高い範囲を示す。図の右端の急速な気温上昇に注目されたい。この急激な上昇は西暦1年以来前例のないもので、過去10万年の中で最も温暖だったころに匹敵するものである。



IPCC 第一分科会 第6次報告書より引用

「温暖化防止と20年」を省みる 新田 修



記憶をたどれば、平成14年9月3日に北部公民館に発起人3名（小山俊氏、高橋鞆子氏、新田修）が集まり打ち合わせをし、9月27日、千葉県知事から推進員委嘱された5名が初会合を開き「温暖化防止ながれやま」と称し発足しました。

それからもう20年を経て、今、20年を省みると感激に堪えません。会員一人ひとりの努力苦労や、井崎市長はじめ市の幹部・関係職員のご支援と、千葉県環境部地球温暖化推進室や活動推進センターの方々、流山市内外の環境関係団体諸氏のご指導とご協力、ご支援を頂きました賜物と感謝し御礼を申し上げます。よくここまで見守り育てていただきありがとうございます。

現役時の職場で空調機器に関わっていた昭和60年頃のオゾン層保護のためフロン等の規制がされたことを記憶している。温室効果ガス規制対象ガス種で温室効果係数はCO₂の1300倍もあるとは後の学習で知りました。この体験から地球環境問題に興味を抱き、地球温暖化防止活動へと取り組み始めたのです。

平成13年10月から千葉県環境養成講座や、12月には千葉県環境財団の地球温暖化問題の我が国の取組をテーマとした問題を初めて受講しました。「全国地球温暖化防止活動推進センター」組織設置等や「京都議定書」の解説・内容を学び、驚いたのには「日本の削減目標は1990年比の6%削減であるが、6%削減はそもそも削減できるのか、全くの努力目標でしかない」との発言でした。

わが国における地球温暖化対策の取り組みは1997年に第3回気候変動枠組条約締結国会議で京都議定書が採択され1998年に地球温暖化対策推進法が制定されてから始まり、千葉県では地球温暖化防止活動推進員の設置は平成14年2月1日付で第1期知事委託がされたのです。

初めに行政の認識を得ようと、平成14年9月25日に流山市の環境部を訪ねた。経済環境部環境保全課公害対策係長他2名とメモにある。主な業務は環境保全の放牧地の雑草刈・犬の狂犬病対策・ゴミの不法投棄対策等の作業で地球温暖化防止対策などはほとんど手についていない状況でした。各自の私案で環境市制に温暖化対策実施案を持ち寄り、保全課と協議しながら進展をと試みたが効果なしでした。また同時期に市環境基本計画策定市民委員会の委員として、会議は14回迄も出席していたが事務局案を提唱するばかりで、主張する温暖化改革案は打ち消されるまま、平成16年度環境基本計画とされた。

当時の国の温対法や県の推進設置法が施行されても市政はこの状況ですから地球環境問題、特に地球温暖化防止を市民が市民に推進するには、まず身近な資料作りの収集を“自分で出来ることから始めよう”と家庭の環境家計簿から省エネの実践等を実行しながら進めて来ました。そのころに『環境を優先した都市づくりへの決断を』とした私案を市環境部に提出しております。過去数年間かけて学習した意気込みレポートです。暗中模索の中で少しずくわれたのは平成17年市環境部長に松本公男氏の就任から一転したと覚えています。部長自ら環境講座に出席され「これからの環境行政について」説明され、有難く拝聴しました。

少しは市民の皆様に認知されたと思っていた頃、平成22年5月に実施した市民講座「緑のカーテン（ゴーヤ）つくり」～市民の省エネ対策には楽しみながら節電できるゴーヤカーテンを～を開催し大評判でしたが、この後、このゴーヤ事業は本会とは別の団体として「流山ゴーヤクラブ」の活動となり、現在も活躍しています。

本会には忘れない人がいます。それは今年3月に苦闘の末に闘病の甲斐なく逝去された本会最大の功労者である春田育男さんです。皆様と共に合掌し、ご冥福をお祈り申し上げたく思います。

彼を本会に誘い込み入会させたのは私です。下花輪会館で春田さんを呼び、即入会とし、事務局長役を受託願いました。それ以降は一時代

表も兼務しながらの事務局長を継続し、大役を20年近くも務められてこられました。その功績はいま申すまでもなく、本会の渉外・企画から記録・ホームページ原稿等まで一切を彼がまとめた功績です。長い間ご苦労をかけ申しわけなく思います。

この20年間に、他4名の功労者が命を捧げておられます、重ねてご冥福をお祈り申し上げます。馬渡敏隆さん：（環境講座・出前講座担当）、平井真澄さん：（技術担当講師）、高橋鞆子さん：（発起人・行政のチェックマン）、横須賀靖さん：（当会代表）の方々です。その時その人なりに頑張っていただきました。

温暖化防止ながれやまはCO₂ダイエット宣言の苗木を記念植樹しました。平成18年4月29日（2006年）（みどりの日）、流山おおたかの森駅南口にキンモクセイの苗木を記念植樹しました。



この苗木は温暖化防止ながれやまが参画する環境シンポジウム千葉会議実行委員会「トップ地球温暖化・千葉からアクションを」の具体的な取り組みとして、CO₂ダイエット宣言を広めていこうとCO₂宣言実行委員会（環境省、経済産業省など）から贈られたものです。その苗木を井崎市長に進呈し、市長自ら植樹されました。流山市記念樹木となっております。

最後に、この地球温暖化問題は市民が動くことは勿論ですが、世界・日本のトップリーダーの決断であり、立法・政府が方針を『決断し実行する道』以外に解決する方策は無いと強く訴えたく思います。脱炭素化こそが、エネルギー

危機と気候危機の解決策だとした菅義偉元首相の宣言通り「温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする、カーボンニュートラルの実現を目指す」改正温対法が2022年4月に施行されています。全世界的な話題となっておる気候変動問題などに対応するため、日本も「脱炭素社会」実現に向けた取り組みが重要であります。過去にあった“何とかなるさ～”では明日への子供たちの生命にも関わります。

その現下においてロシアのウクライナ侵攻から数か月の間に、先進国と途上国を問わず世界各地で甚大な気候災害が多発しています。日本ではエネルギー価格の高騰だけがエネルギー危機として論じられているが、気候災害は国を滅ぼし、人命を左右するほどの危機です。脱炭素社会への移行過程で生じたこの危機の対策は、原子力や化石燃料への回帰ではなく、世界の目標である脱炭素化へ加速させるべきと思います。

地域社会に転すれば、“地球の明日のため流山からアクションを！”本会のこの20年間の無我夢中の努力を無為にしてしまうのか。悲しい事実です。“解決できるのは誰なのか”考えさせられます。

行政の環境対策と市民

横田輝雄

環境問題は国や市によって異なる、何が正しいのか結論は難しい。しかし、自分たちの日々の生活が原因であることは明らかであります。環境に関する知識・意識・情報が薄いまま行動すればこの問題は解決しない。だがこれだけやれば解決するという問題でもない、行動の結果まで関心を持たなければ無駄な努力になるかもしれません。

市民の誰でもが、リアルタイムに毎月、市政の温暖化対策の進捗状況が見えるように期待したい。

ささやかな環境教育実践20年を振り返り 未来へ託す 難波幸男

地球規模の環境問題が20年以上前から少しづつ温暖化防止の関心事項として毎日のように新聞記事で見ない日はないくらい世界中で話題ごととなっています。

私は教職の現役を定年退職して10数年が経過しましたが、「何か地球の明日のために役立つことをしてきたか?」と考えて、会の発足から20周年が過ぎた今、改めて振り返ってみました。

ライフワークとしての環境保全活動を少しずつお手伝いさせてもらっていますが、課題の解決にはまだまだ環境教育・学習の時間と振り返りが必要です。そこで、平成13年千葉県では温暖化防止推進員の活動が制度化されて、第一期の募集が始まり、当時勤務していた派遣先の現代産業科学館上席研究員の立場で応募しました。

平成14年2月1日付で第1期の研修会を受講して、千葉県知事より推進員として委嘱され、活動が始まりました。その後の9月27日に流山市在住の5人(難波、新江、小山、新田、高橋鞆子)が集まり市の環境保全課へ会の発足報告となりました。

そのころ県内の小中学校の教育等による「千葉県環境教育研究会」が千葉大教育学部の鶴岡先生を会長に組織され、さまざまな活動が実施され盛り上がりを見せましたが、残念ながら若い先生方へのバトンタッチがうまくいかず約18年で、会長定年退職と共に解散となりました。

温暖化防止と言っても一般的には分かりにくいので、環境教育のリーダーを育てる「エコマインド講習会(一般向けと教員向け)」「こども環境会議2000」「みんなでつくるエコキットの作成」「環境シンポジウム」への参加。中国への支援等の活動をしてきました。

OBNの活動については、市民環境講座に力を注ぎました。国連を始め世界中の国が2030年までの10年を「行動の10年」とよびかけ、SDGs実現に向けた活動を即し、日本でもSDGs

の新聞広告が連日新聞に掲載されています。

これからOBNの活動目標は「脱炭素の街づくり」のために未来に向けて、若い世代をいかに育っていくのか成果が問われそうなわれわれの世代である。

温暖化防止ながれやま創立20周年に思う

副代表 高橋 勇

宇宙で一番恵まれた星★地球。その大地に住む私たち人類、資源を湯水の如く使い順風満帆の宝船生活が、当たり前の様に振る舞い感謝を忘れた人間達、異常な気候変動に因る悲惨な気象現象が世界各地で多発している現状を他人事の様に思っている多くの人々。私達、略称「OBN」は過去20年間の省エネを軸としたNPOの集大成的な活動としてのSDGs(エスディージーズ)これは地球温暖化による、持続可能な開発目標の頭文字SDGsですが17項目中7番のクリーンエネルギーと13番の気候変動対策を主に身近な問題としてとらえ、「私達にもできる事」を流山市民の皆さんと共に考え実践して行きたいと思っております。SDGsの7番+13番=20周年の課題です。

OBN20周年に感じたこと

大塚洋一



2014年8月に、私も、温暖化防止ながれやま(以下OBNとする)に入会させて顶いてから8年が経ちますが、OBNはさらに12年前から活動をされておられ、今年で20年目を迎えるされました。おめでとうございます。

OBNの活動において、特に2013年12月の「平成25年度地球温暖化防止活動環境大臣表彰」で、地域における効果的な節電に関する実践・普及活動が評価されたこと、さらに、国や県の地球温暖化防止計画および流山市環境基本計画と連動し、市民団体、企業、行政などと協力

で、地球温暖化防止を推進されていることが素晴らしいと思います。

ここ最近私の感じた、「地球温暖化防止」や「OBN」に関すること6点を、時系列でご紹介させて頂きます。

①2020年10月には、「日本も2050年CO2実質ゼロ」について、菅義偉首相の一言でようやく動き出しましたが、国のトップの決断、國の方針が決まるときから次へと関係省庁、県、地方自治体、企業が動き出したことです。毎朝、新聞を読むのが楽しみになりました。

②2021年7月、流山市議会第2回定例会の「陳情第4号」では、生活クラブ生活協同組合・千葉様が「国に対し、2030年エネルギー基本計画改定に関する意見書の提出を求める陳情書」を流山市議会に提出されました。特に「2030年度の再生可能エネルギー電力目標60%以上、2050年度は100%」の提案に熱い議論や質疑が集中しましたが、エネルギー政策の基本は地域、市は国を動かしていく役割があるとの陳情書が本会議において、全会一致で採択され、流山市議会から「2030年エネルギー基本計画改定に関する意見書」として内閣総理大臣、経済産業大臣、行政改革担当大臣、環境大臣に提出されました。

③2021年8月、OBNの「省エネルギー学習会」の第169回「ナショナルパークシティ(国立公園都市)宣言」ロンドンに学ぶ」を担当させて頂きました。この宣言は、流山市の総合計画でも紹介されています。2019年7月にロンドンで初めて宣言されたのですが、環境と緑化はもちろん、特に「健康」にも配慮した複合的な要素をもち、流山市の「都心から一番近い森のまち」の実現に向け「グリーンチェーン戦略」だけではない、大きな可能性がある政策であると考え、紹介させて頂きました。

④2022年2月、「第4回環境講座(ECO実験パフォーマーらんま先生の環境エコパフォーマンスショー)」では66組206名の方が参加されました。らんま先生は、2018年3月25日 ECOなエネルギーを利用した「空気砲」の実験で環境講師としては世界初、科学実験講師としても日本人で初めてギネス世界記録を作られ、世界一の認

定を受けられておりました。気さくで温かい人柄の先生から会場一杯元気を頂き、目を輝かせた子供達、保護者の方々、みな率先して「空気砲」を体験され、「環境と楽しく向き合い」ながら、新型コロナを吹き飛ばす!私も、司会や空気砲を支えるお手伝いをさせて頂きました。

⑤2022年3月、予算に関する「議会全体の合意事項」18項目の中に「地球温暖化対策事業については、流山市は住宅都市であるので「高断熱高気密性能住宅」や「ZEH」についての調査・研究を行い、国が示す「脱炭素先行地域」の市内モデル地域の検討に取り組まれたい。」が選ばれました。

⑥2022年5月、「流山市環境審議会」を傍聴し、「第4期地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」の素案の中に、しっかりと、基準年は国とあわせた2013年比。2030年CO2排出量46%削減。2050年実質ゼロの目標となっていることを確認し、ほっとしました。

いよいよ流山市もこれらの目標に向かってスタートします。私もしっかりこの目標が実践できるようOBNのメンバーとして頑張ります。

温暖化の進む20年を振り返って

下田 収

この20年を振り返ってみて、何といつても新しい技術用語で温暖化防止に重要な影響を与えた用語の一つは「カーボンニュートラル」だろう。この最初の使用例としては、2020年10月に新しく首相に就任した菅義偉総理大臣の所信表明演説の中で「我が国は2050年までにカーボンニュートラルを目指す。」と宣言された時に使われた。その意味は、「西暦2050年までに日本は脱炭素社会の実現を目指す」ということで、政府はこれまで「2050年までにCO2の排出量を80%削減」としてきたのとは大変な違いだ。歴代総理からはあまり聞かなかった貴重な温暖化防止の核心であるカーボンニュートラル発言の説明を、テレビを通じて聞き、後日、新聞紙上で詳細な解説等を見たときは、温暖化防

止の一端に関わって来た一人とて非常に勉強になっただけでなく、温暖化防止の仕事に携わっているメンバーの多くが、新しい知見カーボンニュートラルを身に着け温暖化防止へのアプローチを堅固なものにしていったことは、温暖化の進む20年を振り返って印象的で忘れられない出来事であり、今も心の中で生きているような感じがしてならない。

折しも環境省、国立環境研究所等の発表によると、温室効果ガスの排出量は6年連続で前の年度を下回り、算定を始めた1990年度以降で最も少なかった2018年度より3560万トン、率にして2.9%減って過去最少を更新した、としている。
(2021年4月13日NHKおうちで学ぼう！for Schoolより)

願わくば地球温暖化防止のためにカーボンニュートラルがさらに推進されて行かれることを。

小さなこと、私たち一人一人の生活の見直しが大切

大塚香里



「温暖化防止ながれやま」創立20周年おめでとうございます。

「地球温暖化」「異常気象」という言葉をよく見聞きするようになりました。

今年は6月から気温が35°C前後になる猛暑日が続き、30°Cになった日にはホットとするような夏でした。私が子供だった頃の夏休みは28°C位で「暑い！プールに行きたい！」と言っていたことを思い出し、この気温はこれからどこまで上昇するのか？考えると恐ろしくなります。

私の生活を考えてみても便利な車での移動や衛生的なプラ容器を使用するなど、CO2を排出することが多々あります。2020年7月からレジ袋の有料化が開始され、最近では「マイバック」を持参されている買い物客の姿が当たり前のようにになってきました。小さなことですが、これからも一人一人がCO2を排出しない、再生

エネルギーを使用する生活が必要だと思います。

そのためにも、「温暖化防止ながれやま」が取り組んでいる「市民環境講座」や「出前教室」などを通じて、子どもたちへの環境教育をしっかり行うことが大切だと思います。

人口が増加している流山市です。若い世代の方々にも「温暖化防止ながれやま」の活動に興味を持っていただけると嬉しいです。

夢は地球を守る技術者

相葉悦子

私は千葉県地球温暖化防止活動推進員に2017年から担わせていただいております。申請時は、推進員になればセミナーなどに参加できる程度の軽い気持ちでした。初めて推進員研修会に参加したとき、推進員は自ら出前講座やイベントへの出展などの活動をする必要があることを知り困惑していました。そのとき偶然となりに座っていました新田修氏が「お住まいはどちら？」とお声かけくださいました。「流山市ならうちの団体に入るといいよ」とやさしくおっしゃっていました。事務局長でいらした故春田育男氏も要領よくご説明してくれました。私は3人の子育てをしながらフルタイムの仕事をしているため参加できるのは土日のみ、参加できるのは年に数回です、と初対面ながらわがままを言ってしまいました。それでも、「できる範囲で参加してくれれば」とやさしくおっしゃってくださいました。今もほとんど活動できておりませんが、入会から5年在籍させていただいている。

故春田氏に、なぜ「温暖化防止ながれやま（以下、OBN）」の活動をされているのか質問したことがあります。そのとき、「地球温暖化で日本の米が栽培しにくくなっている。現に北海道産が流通してきている。おいしい日本酒が飲めなくなるのは嫌なので、温暖化を防止したい」と笑っておっしゃっていたことを覚えています。

私が温暖化防止に興味をもったきっかけは、

高校在学時、仲良くしてくださった社会の先生に影響を受けたことです。先生は地球環境問題に大変熱心な方で、授業中にアニメ映画「風の谷のナウシカ」を視聴するなど、環境問題に対して楽しく学ばせていただきました。また、同じく仲良くしてくださった理科の先生から科学の面白さを学び、「科学の進歩で汚染してしまった地球を科学の力で浄化する」という夢をもちました。大学では工業化学を専攻し、卒業論文はCO2の固定化を研究しました。卒業後は、夢であった「地球環境を守る技術者」を目指して開発職をしていました。また、将来仕事で活かせばと思い、国家資格である公害防止管理者（大気）1種を取得しました。しかし、出産を機に事務職にならざるを得ず、ならばプライベートで活動できないかと考え、推進員制度を調べ、念願の夢を実現させるため、推進員になることを決意しました。

OBNの皆さんには、お仕事をリタイアされた年齢の高い方が多いのですが、活動意欲はとても高く、情熱を感じます。現役時代のご活躍ぶりが伺えるほど仕事が丁寧で、かつスピードが早く、驚かせています。また会議中の議論が闊達で、意見がぶつかり合うこともしばしばありますが、一つの目標に向かってイベントを成功させようとする熱い想いが伝わってきます。環境講座等の資料の質も高く、とても勉強になります。

知識もスキルもまだまだ不足しているため微力ではございますが、引き続きOBN会員として温暖化防止の一躍を担えたらと思っております。

ハチドリの一滴

加藤啓子



OBN20周年おめでとうございます。私たちは毎秒呼吸して、酸素を取り入れている。動物には、澄んだ空気ほど、大切なものはありません。私も未来のためにできることからと、太陽光発電設備をつけ、断熱の窓や壁に変更し、電気自動車に乗り、庭木を育てています。しかし、アメリカと中国のCO2排出量を考えると日本の努力も焼け石に水かもしれません。童話のハチドリが山火事を消したように、みんなで取り組めば大きな力になります。やれることから地道にこれからも次世代のために頑張りましょう。

温暖化防止ながれやまの創立20周年を記念して

菅原英雄

全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCA）は、平成11年「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき同年7月指定を受けました。

その4年后に「温暖化防止ながれやま」は設立スタートし、本年で20周年になります。創設に携われた皆様、そして今日までその活動を切れることなく継続してきた皆様に敬意を表しますと共に心よりお喜び申し上げます。

私は平成15年に「未来の子供たちにきれいな地球環境を」を社是に環境ビジネスの会社を設立し、その後縁あって平手彰さんがこの会の代表時に千葉県温暖化防止推進員となり入会し、約10年近くになります。

紐解いてみると多くの市民環境講座の中で、当時NHKのお天気人気キャスターの井田寛子さんをお呼びして開催した時も多くの市民の方が参加して地球環境に関心を示してくれました。



元NHKお天気キャスター井田寛子さんと

私は仕事として温室効果ガスの削減を目的に、企業の照明の省エネ化と再生可能エネルギーの一つである太陽光発電のビジネスも手掛けています。

そして、流山市と商工会議所が一体となり「流山市太陽エネルギー活用センター」を設立し10年になります。

市民の皆様の太陽光パネル設置・検討などの相談支援を行い又、電気や色々なエネルギーをスマートに使用してもらえるように啓蒙活動をしています。現在も私はその一員として、委員をしております。

流山市は、「都心から一番近い緑の街ながれやま」と環境維持のための合言葉をもとに子育て世代への生活環境の維持にも非常に前向きな市政を推進してくれています。

「地球の明日のため」ぜひ市民共々一体で、「緑輝く流山」を、この「温暖化防止ながれやま」が市民活動の先頭に立ち、この活動を微力ながら支援してゆきたいと思っています。

猫の手のお手伝い

大塚紀夫

創立20周年を迎えた「温暖化防止ながれやま」の小生は、2019年に賛助会員として加えていただきました。

きっかけは高齢者福祉センター陶芸講座で、春田育男さん（温暖化防止ながれやま事務局長、2022年3月、20周年を楽しみにしていた

が、ご逝去）とご一緒に、作陶技術をあれこれ教えてもらったことからでした。彼を含め、複数人で陶芸教室のまとめ役をした時から、その人柄に惚れて、彼の応援をしたかったのです。

従って小生のことと言えば、らんま先生の講演会場に設営や文化会館上映会場整備のお手伝い。樹木の剪定作業手伝い等で、もっぱら人手が足りない時の猫の手労働です。

パソコンも使用していない小生は、家庭の事情もあり、現在も日常勤務をしております。温暖化防止ながれやまに、自由に時間をさけない身ですが、応援の趣旨は変わりません。

温暖化防止ながれやまに対する春田育男さんの情熱は論ずるまでもございません。小生が自ら進んで取り組んでいることは、趣味の釣りと昆虫採集ぐらいのものです。それも気の向いた時のみです。その意味でも、温暖化防止という大義名分に突き進む彼の一途さにひかれたのです。故にこの20周年の節目を無事乗り越えて、ますますの発展をしてゆくことを祈念してやみません。

温暖化防止ながれやまと歩いた日々

筒井義憲

私が九州から市川市に本社がある京葉ガスに入社したのは、昭和50年、光化学スモッグや河川の汚染が環境問題となっている時でした。千葉県では天然ガスを産出しており、京葉ガスはその天然ガスを使って都市ガスを供給しているということで、環境に良い経営をしており、将来性もあると考えて入社しました。その頃の都内の空気や河川の汚濁は酷いものでしたが、対策が取られたことにより徐々に改善しました。

その次に問題となったのが、気候変動（地球温暖化）の問題です。IPCCが設立され、京都議定書が採択された頃は、営業煙で重油等と比較すると環境に優しい天然ガスの普及に努めておりました。

その後、平成14年（なぜか温暖化防止ながれやま創立の年）に京和ガスへ赴任し、流山でエネルギー供給事業を担当することになりました。

た。そして、環境問題に積極的に取り組むNPOに補助金を出す『エコアクションサポート』事業を行う中で、「温暖化防止ながれやま」と出会い、入会しました。ちょうど、10周年の年で、江戸川台福祉会館での記念レセプションに出席したことが懐かしく思い出されます。

現役の時は、賛助会員とさせて頂いて、時間があれば活動に参加するという感じでしたが、退職したのちは積極的に参加し、市民環境講座では、国立環境研究所見学ツアー、ソーラークリーク立、環境映画映写会（ラロックスおじさんの秘密の種）を、出前授業では、流山高等学校での環境講座、夏休み子供教室でのソーラークリーク実験などに講師として参加しました。特に流山高校では、終了後に生徒会長からお礼の言葉を受けましたが、生徒会長が説明した内容を完全に理解していたのには驚きました。また、市民環境講座では、親子で参加ということでしたが、子供がしっかり自分で工作していたのが頼もしかった記憶があります。これから地球のために是非活躍して欲しいなあと思いました。

今年で創立20周年ということで、そんな「温暖化防止ながれやま」と歩いた日々が懐かしく思い出されますが、昨年腰の手術をして、まだ回復していないのでなかなか一緒に歩けないのが残念です。早く治してまた活動したいと考えています。

入会して10年を振り返って

笠原久恵

私が初めて当会に参加しましたのは、創立10周年記念レセプションの時がありました。その後、会員となり様々な活動に参加してまいりました。

活動の1つとして市民環境講座を様々行いましたが、「ペットボトルソーラー工作」、「牛乳パックLEDランタン工作」の夏休み親子工作を担当させていただきま

した。

そして省エネ学習会（現在は、暮らしのSDGs学習会）で特に記憶にありますのは、第150回、第174回の斎藤 健（元農林水産大臣）、鬼沢良子（NPO法人元気ネット）の新春対談です。国や世界の課題や対応などのお話を聞けて貴重な時間がありました。「食品ロスの観点からスーパーで品物は、前から取りましょう。」ということは、鬼沢さんから学び、現在も守って買い物をしています。

そのほかについては、「まちなかプロジェクト植樹祭」、「茨城パッシブハウス見学」、「JAXA見学」、「前ヶ崎植樹剪定作業」など、会員の皆さんとの活動の楽しい思い出があります。

現在流山市は、人口増によるごみ減量の推進、区画整理や小規模開発による森林の減少があるため、当会の活動は、とても重要と考えています。

私の考える活動内容は、知識向上と広く市民に温暖化防止について関心と理解の普及にあると考えています。そして市民活動である原動力は楽しさだと思いますので、楽しくこれからも続けていければと思っています。

